



## 治療のためトルコへの入国を待つ子ども

（2023年5月6日 NHK NEWS WEB 抜粋は文責による）  
 ことし2月6日に発生したトルコ・シリア大地震では、トルコで5万5000人、隣国シリアでおよそ60000人が死亡しました。大地震で大きな被害が出たシリア北西部は内戦でアサド政権と敵対する反政府勢力が支配する地域で、国連によりまずと85万人以上が自宅の倒壊や損壊の被害を受け、今も5万3000世帯が、簡素なテントなどでの暮らしを余儀なくされています。

このうち、トルコとの国境に近い町ジャン・デレスでは、被害を受けた建物のがれきが今も至る所に残されていて、生活の再建には程遠い状況です。

また、大地震の後、トルコへの渡航が制限され、もともとぜい弱な現地の医療環境のもと、トルコでの治療を求める人たちは困難な状況に陥っています。

そのひとり、ムサ・アブドくん(5)です。

去年11月に脳腫瘍が見つかり、治療のためには設備の整ったトルコの病院に行くしかありません。

ムサくんがトルコに向かおうとしたその日に大地震が起き、それ以来、トルコ側は患者の受け入れをやめています。

ムサくんの父親のサレムさんは「息子を失うのではないかと心配しています。もし国境が閉ざされ続ければ、息子の病状が悪化し、私たちはより苦しむのです」と述べ、トルコ当局に治療のための入国を認めてほしいと訴えています。

シリア北西部の入管当局によりまずと、ムサくんのように治療のためにトルコへの入国の許可を待っているがん患者はおよそ10000人いるということで、内戦と大地震によって十分な医療が受けられない状況が続いています。

## 日本人建築士が防災の啓発活動



と同等の耐震基準があるものの、運用面で問題があると訴えてきました。

具体的には▼安全基準を満たさなくても一定の金額を払うことで建物の使用が認められる「恩赦」と呼ばれる制度が存在することや▼施工前後のチェックが甘かったり▼設計や建築に関わる技術者の経験が浅くても資格を取得できたりするなど不備が多いと指摘してきました。

森脇さんは「トルコの現状を変えたいという思いがあったので、自分のできることをしよう」と対応してきました」と話しています。

森脇さんは、2011年の東日本大震災とトルコ東部・ワンで発生した地震をきっかけに、建築士としての知識を生かして、ボランティアで防災の

ことし2月の地震直後からトルコの防災対策の問題点を指摘したり、長年、現地で防災の啓発活動を続けてきたりした日本人建築士がいます。

準大手ゼネコン「安藤ハザマ」のトルコ代表で、30年以上トルコに住んでいる一級建築士の森脇義則さん(67)です。

地震発生直後から現地のテレビ番組などに連日出演し、トルコでは日本

参加した男子児童の1人は「地震があつたらどう命を守るかとても勉強になりました」と話していました。

森脇さんは、「とても熱心に聞いてくれてよかったです。長年トルコに暮らしてきたので恩返しだと思っています。もう森脇さんがいなくても大丈夫」と言われるまで、防災意識が根付いたらいいと思っていますが、それまではできることを続け、日本とトルコの懸け橋になれるよう、活動していきたいです」と話していました。

啓発活動を始めました。

森脇さんによりまずと、これまでにトルコ各地で450回以上、学校や企業向けに講演を行ってきたということがあります。

5月2日もイスタンブール市内の学校を訪れ、小中学生を中心におよそ600人の前でトルコ語で講演を行いました。

森脇さんは、家具の配置を変えることで命を守ることができるのか、就寝中、地震で建物が崩れてきたときに備えて、逃げられる場所を作ったり、ベッドのそばに水などを用意したりすることが必要だと伝えた上で、学んだことを家族とも共有して欲しいと訴えていました。

we support!

RQ  
災害教育センター

MONTHLY

「東北に黒糖を送ろう！大作戦しんぶん」改め  
復興支援『すけさきた』  
かめふばと

「すけさきた」とは  
宮城県登米市あたりの言葉で  
「ボランティアに来たよ」という  
意味である。

JUNE  
11  
2023